



群馬県議会議員

中沢 丈一

新年あけましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になりました。今年も相変わらずよろしくお願い申し上げます。

昨年の夏は異常な暑さでありました。造園管理には、ご苦勞があったことと拝察いたします。私は、あまりの暑さで、秋の紅葉がどうなるか気がかりでありました。しかし、意外にも、満喫できる紅葉を見ることが出来ました。

以前、街路樹の剪定が早すぎて、期待していた紅葉を見ることが出来なかった年がありました。そこで、紅葉を見てから剪定をすべきと要望しましたら、早速、次の年は、希望を叶えていただき素晴らしい紅葉を見ることができました。

協会の皆様には、街路樹管理にもご苦勞かけますが、植物、造園は、生活に潤いを与える造園文化でありますので、今後の活動、活躍にご期待申し上げます。

さて、今年、日本の経済は、依然として厳しいようであります。公共事業も削減の方向であります。社会資本の整備の遅れている地方は、益々遅れてまいります。異常気象で、何時、何処で、災害が起きるか判りません。造園関連4団体の皆様には、防災協定を締結していただき感謝申し上げますが、県民の安心・安全に対する要望は益々高くなっていく年であります。TPP（環太平洋パートナーシップ協定）参加により日本の経済は混乱しますが、群馬県ではDC（デスティネーションキャンペーン）で活力への弾みをつけて参りますので、ご支援ご協力をお願い申し上げます。

今年一年が、群馬県造園建設業協会にとりまして、実り多き年となりますよう、皆様のご健勝、ご多幸を祈念申し上げます。新年の挨拶と致します。

平成二十三年 元旦



群馬県議会議員

久保田 順一郎

新春を迎え、健やかなる新年をお迎えのことと存じます。皆様におかれましては日頃より県政各般に渡り誠に世話になっており格別なるご支援とご指導を賜っておりますこと心より厚く御礼申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと7月の参議院議員選挙におきましては自民党公認の中曽根弘文氏が倍票の当選を果たすことができ圧倒的なご支持に對しまして心より感謝申し上げる次第であります。また、9月の『第34回全国育樹祭』では皇太子殿下をお招きし関係各位の多大なご協力の基、無事その儀を果たすことができたことは誠に嬉しい限りであります。

昨年は過去にない試練の年でありました。特に産業経済分野では日銀の短観や中長期経済見直しと相反し、蔓延した国内不況の波に自治体の財政悪化は群馬県も県税の極端な減収と雇用問題がより深刻な状況に至りました。特に農業分野においては過去にない苦難の年でありました。宮崎県の口蹄疫の発生は全国畜産酪農家を震撼させ、猛暑による記録的な高温災害は米作に深刻な品質低下をもたらし、園芸農家は高温障害による不作で大幅な出荷低減に至りました。地球温暖化対策はいよいよ急務になったと思われまます。

一方、現政府は財政的根拠のない耳触りの良いバラ蒔き政策を正す事なく、また浮かれるマスコミの偏重報道は政治をショータイムにし、政権は事業仕分けや開き直りの論点のすり替えに終始しております。外交や地方政策は論外ですので亡国の念は健在です。

かくも混沌とした国内外の経済政治状況は本年も国・地方ばかりか私達の生活環境に至るまで、まさに予断を許さない状況となっております。

群馬県では大沢県知事と県議会は一体となってこの難局を乗り越えるため懸命なる県政運営に取り組んでおります。本年は群馬県のイメージアップのため、JRのデスティネーションキャンペーンが七月から開始されます。観光県群馬再興の策として業界皆様のご

協力を是非ともお願い申し上げます。

来年4月には、いよいよ地方統一選挙・群馬県議会議員選挙が行われる年となりました。このような過度な変革の時代を乗り切るため、また一人でも多く皆様の生の声を伝えるためにも、来期に向け私も意欲的にチャレンジさせて戴く所存です。皆様の変わらぬご支援を賜りますよう切にお願い申し上げます。

最後に、時節柄ご健康にはくれぐれもご留意されますよう、皆様のますますのご健勝をご祈念申し上げます。



群馬県議会議員

橋爪 洋介

新年明けましておめでとうございます。

清水会長をはじめとする社団法人群馬県造園建設業協会の皆様方におかれましては、お健やかに新たな年をお迎えのこととお慶び申し上げます。『兎年』だからではありませんが、『兎に角(とにかく)』新しい年を迎えることが出来た」というのが正直な気持ちではないでしょうか。三年前のリーマンショック以降、世界的に金融危機が襲い、未曾有の経済危機に繋がり、国、地方、国民は対応に追われました。

その後、緩やかに企業業績は回復基調であったものの、急激に進んだ円高に政府、日銀は為すすべもなく、再び企業は受注機会を失いました。その間、忘れてならないのは、政権交代による『公共事業の見直し(削減)』であります。昨年の夏、通い慣れた国道を自動車で行くと、日に日に中央分離帯の雑草が伸びてくるのがわかり、遂には人の背丈程になり、対向車が見えにくくなった記憶があります。このような状況で今年夏のデスティネーションキャンペーンを迎えるのか？という気持ちと、そもそも「交通安全上よろしくない」という不安が同時に湧き起こったのは私だけではないはずで、更には、環境型社会への転換は行政にとって世界的な趨勢であり、貴会のご協力無しには群馬県の健全な発展もあり得ません。皆様方におかれましては益々のご活躍をご祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。